



<2021年8月8日>

46号の原稿を提出した。相変わらず新型コロナウイルスで困ったもんだ。これでは婚活もどうしていいかさらにわからない。(この文章では5を6に変えただけだろうが。)

<8月20日>

もう数日前の話だが、某既婚の看護師長の Y さんに、39歳位の女性はいないものだろうかとの別の用事について話してしまったが、翌日も近くに来ら

れた機会があり、婚難救助隊の存在を某師長にお伝えした。YouTube の登録者が一瞬64名になったのに63名に戻った。なかなか増えないが63名にはありがたいことである。

<9月12日>

実は登録者が62名に減ってしまい10日ほど続いたが63名に昨日戻った。某マッチングアプリでかなり久しぶりに返信してくれた人がきた。せっかくなので反応が続いていただきたいものだ。

<11月6日>

10月を飛ばしていたことに驚いた。日記どころか、月記にもならなくなってしまったか。

重ねて、かなり、内容が短い展開が続いていると思うが、それだけ婚活は難しい人には難しいということで、つまり、日々に変化が起こせないのである。変化こそが実は文字となるのではないだろうか。デビューの頃は離婚問題の当事者だったり、かなり変化ある心境の動揺があったのだが。

やはり、パートナーとの関係性というのは動揺を伴う重要事であり、それが文字量となるのだろう。

もう少し提出を伸ばそうかと思っていたのだが、YouTube「婚難救助隊」は私の運営だが、登録者数が70人となったので、きりが良いのもう提出させていたかどうかと思ってしまう、思ってしまうと

思い通りにしたい性分のために提出していただく。だが、2カ月で7名増えていたのかと思うと、理解してくださる方々もいるんだなとうれしい。登録者数70人は増減するのが残念だが、それぞれのYouTube番組の視聴者数は減ることはない。一つだけダントツで3300視聴を超えたYouTubeがある。これはけっこうすごい達成だと思っているのだが、どうしてそうなっているのかがわからないのだ。わかれば、もう有名人に既になっているわな。婚活の苦労もないかもなー。

某マッチングアプリで何百人応募しても誰も来ないというのに、唯一のたまにメールが来る某異性であるが、メル友？として55日を超えることができたが、相変わらず差しさわりのないことを送信し続けている。半面、思い切ったアプローチがメールでさえ出来ないのだ。

昨日だったか、私は競馬は応募したことがないが、ニュースで、スモモモモモモモという競走馬が優勝して、アナウンサーが4回連呼したのが見事だったというのを知って、それを某異性にメールしたのだった。差しさわりない内容でしよう？

あまり熱心にやりすぎると電車男のような連載になってしまうのでそれはいけないと思うが、現在私は54歳だが、実子が諦められず、某異性は14歳差である。しかし、社会とか時代のせいにしてはいけないのかも知れないが、社会や時代のせいもあると思う。もっと結婚

が重要視されている時代だったら、結婚できているのではないのか。自由とか多様性とかで結婚しない選択の異性が増えたら一方では結婚できない人が増えるのだから。社会の自由や多様性が、一部の人達には苦勞を伴わせてしまうというパラドックス。これがマスメディアやなにやらで発信されていないことだ。だいたいマスメディアの人達は結婚に苦勞する人達じゃないのだろう。てか。